

2015年3月期 第1四半期 決算発表後 IR 活動での Q&A

**Q：全体：上期業績予想を上方修正したが、その理由は？**

A：第1四半期の業績が堅調に推移したことに加え、半導体機器事業の受注が想定を上回ったことなどによるものです。

**Q：半導体機器事業：第1四半期は前年同期と比較して、売上は減少したが、営業利益が増加した。その理由は？**

A：営業利益におきまして、前年同期と比べ、売上の減少に加え、前期に実施した緊急対応策の解除による固定費は増加しましたが、かねてから取り組んできた変動費率の改善や、たな卸資産評価損の減少などにより増益となりました。

**Q：FPD 機器事業：今期は黒字化を想定しているが、その背景は？**

A：中国向け大型 TV パネル設備への投資が堅調で、前期第4四半期から当期第1四半期は100億円を超える高水準の受注が続きました。これらを背景に当期は前期に比べ大幅な売上増加が予想されることから、黒字化を予想しています。

**Q：今後の受注動向：第2四半期の受注の見通しは？**

A：主力事業である半導体機器事業では、第1四半期の受注に比べては増加するものと予想しています。ファウンドリーは若干減少するも、メモリーの増加を見込んでいます。FPD 機器事業に関しましては、半年続いた中国案件による堅調な受注は一服する見込みです。

**Q：全体：4月1日に新社長になり、6月28日の株主総会を経て、新経営体制に変わったが、社内での変化は？**

A：新社長の垣内のもと、収益構造改革への意識やスピード感が変わってきています。また、本年10月1日の持株会社体制への移行に向け、各事業での独立採算制の強化やバランスシートに対する意識の高まりも見られます。

以 上